

第18回 鹿児島県障害者スポーツ大会

《ボッチャ競技 競技規則》

第1条 原則

本規則に定める各項およびそれ以外は、同年度の（一社）日本ボッチャ協会競技規則を準用する。

第2条 競技場

2-1 競技場の条件

屋内体育館を原則とし、空調装置が設置されていなければならない。

コート表面は、フローリングまたは弾力床材で平坦でかつなめらかでなければならない。

2-2 コート

- (1) コートの大きさは、原則として12.5m×6.0mである。
ただし、会場の条件等によりエンドラインまでの距離を10mまで短縮することができる。
- (2) コートのラインテープは、サイドライン・スローイングライン・Vラインには4.0cm～7.0cm幅のテープを使用し、投球エリア内を区切るボックスサイドラインとターゲットボックス内のクロスは1.9cm～2.6cm幅のテープを使用する。
- (3) ターゲットボックスの規定サイズ：長さ35cmで、1.9cm～2.6cm幅のラインテープを使用する。
- (4) 競技では使用するスローイングボックスは2番、3番、4番、5番のみとする。

第3条 用具

3-1 ボール

- (1) ボールは、赤色ボール6個、青色ボール6個、白色の目標球（以下：ジャックボールという）1個で構成される。

ボールの表面は革製（人工皮革を含む）で大きさの基準は以下の通りとなる。

重量：275g±12g

周長：270mm±8mm

- (2) 大会では、個人所有のボールを使用しても構わない。
- (3) 大会前にボール検査を大会主催者が実施する。ただし、基準を満たしていない場合は、競技には主催者が用意するボールを使用しなければならない。

3-2 投球補助具（ランプ）

- (1) 投球補助具（以下、「ランプ」という）は、選手が準備したものを使用する。
- (2) ランプは、付属品、延長部、基本部分を含めた最大最長の状態にして横に倒したときに、2.5m×1mのエリア内に収まるような寸法でなければならない。
- (3) ランプは、ボールを投げることのできない座位の選手が、勾配を用いてボールをコートに送ることを目的としたものであり、加速や減速、狙いを定める機器をつけてはならない。
- (4) ランプは、ランプオペレーターを要して投球する区分の選手が使用する用具であり、投球をする際にはボールに触れたり、押ししたりして自分自身でモーションを起こさなければならない。そのため投球に機械的な補助を設ける機器（スイッチで自動投球する機器、ジョイスティックでランプの方向を決める機器等）をつけてはならない。
- (5) ボールを投球する際に、ランプの先は、接地しているかどうかに関わらず、スローイングラインより前には出てはならない。
- (6) 試合中いかなる局面においてもランプをスイングする必要はない。

3-3 その他の用具

選手が競技を行う際に使用する用具は、あくまで自分の力で投球をするための器具である。そのためグローブや棒などが大会の使用に適しているかどうかについては、器具を検査し、適正であることを大会主催者から了解されていること。

第4条 チーム等

4-1 チーム編成とペア構成

- (1) チームの編成は男女の区別なく2人1組とする。
- (2) チームの1人は、キャプテンとして腕章等を装着して試合を行う。
- (3) ペアの構成は、「立位」と「座位」の選手とする。
- (4) 障害の程度に応じてスポーツアシスタント、またはランプオペレーターをつけることができる。
- (5) 試合に出場するチームには、コーチを1名配置することができる。

※ 選手1名が棄権した場合、参加可能な選手1名が2エンドともオープン扱いで競技することができる。なお、オープン扱いとなった試合は、リーグ戦の成績には反映されない。

第5条 競技方法

5-1 試合形式

- (1) 試合は2対2のペア戦を2エンドで行う。
- (2) 1エンドずつの得点を積み上げていき、2エンドの総得点で勝敗を決める。
- (3) 2エンド終了時に同点の場合は、タイブレイク（各チームの任意の選手によるファイナルショット制度）で勝敗を決める。
※ タイブレイクの詳細は解説第5節（15）を参照
- (4) 各プールはリーグ戦とする。
- (5) 試合は3チームまたは4チームのプールに分かれて行う。

5-2 各チームの持ち時間

- (1) ジャックボールを含めた各チームの投球時間の合計は、1エンドあたりそれぞれ5分とする。
- (2) タイブレイク（ファイナルショット制度）では、各チームの投球時間は、設定しない。

5-3 順位決定

- (1) 各プール内の順位は次の順で決定する。
 - ① 勝った試合が多いチーム
 - ② 勝ち試合が同じ場合は、直接対決で勝ったチーム
 - ③ ①②で決まらない場合は得失点差の多いチーム
 - ④ ③で決まらない場合は総得点の多いチーム
- (2) 上記①～④で決定しない場合は、タイブレイク（ファイナルショット制度）で決定する。

第6条 違反行為

以下の行為については、違反行為として罰則を受ける。

- (1) ラインを踏む、もしくはボックスの外に足や補装具が接地した状態で投球する。
→投球したボールは無効となり、リトラクション（ボール除去）となる。
- (2) 審判の指示がある前に投球する。または指示がない選手が投球する。
→投球したボールは無効となり、リトラクション（ボール除去）となる。
- (3) ランプオペレーターが試合中にコートを見たり、スポーツアシスタントまたはランプオペレーターが競技に介入したりする所作を審判が認めたとき。
→投球したボールは無効となり、リトラクション（ボール除去）となる。

